

■HCV抗体検査って、何？～C型肝炎ウイルスの抗体検査について～

HCV抗体検査って、何？

～【C型肝炎ウイルスの抗体検査について】～

HCV抗体検査とはC型肝炎ウイルス(HCVと略します)に対する抗体を測定して、感染しているかを調べる検査です。このウイルスの検査は、妊婦さんは必ず検査をしている項目で、当検査室ではHCV抗体という項目名で検査を実施しています。

今回はHCV抗体検査で何がわかるのか、また検査結果について説明します。

まず、判定が『陰性(-)』であればHCVに感染してないと判断します。

ただし、非常にまれなことですが、HCVに感染してから体がHCV抗体を産生するのに時間がかかるため、HCVに感染した直後の人は、HCVに感染していてもHCV抗体を持っていない時期があります。このような時期に検査を行った人は間違った判断がされる(陰性結果が出る)可能性があります。もし、不安な方は医師へご相談ください。

次に、判定が『陽性(+)]』であればHCVに感染したことがあると判断します。

「感染したことがある」とは分かりにくい表現ですが、これは、「現在感染している人」と、「以前感染したが現在は治った人」の方が考えられるためです。HCV抗体検査だけではこの2つの状態を区別することはできませんので、より詳しい検査を行って、現在HCVに感染しているかどうかの判断をする必要があります。



前述の文章の中で「抗体があれば治っているはずで、現在感染しているのはおかしい」と不思議に思う方がいるかもしれません。しかし、HCV抗体検査は感染の有無を調べるために開発された検査で、この検査で検出される抗体にはHCVの感染を防御する働きはないとされています。このため、抗体を持っているのに感染し続ける状態が生じてしまいます。

これは、例えば風疹抗体検査などは測定している抗体に感染を防御する働きがあるため、検査により結果の判断方法が異なるために分かり難くなっています。

つまり、HCV抗体検査が陽性の結果が出ても、より詳しい検査を待たなければ現在HCVに感染しているかはわかりません。よってHCV抗体検査では慎重な判断が必要になります。

担当: 検査課